

| | |
|------------------|---|
| Title | 英国に於ける戦時労働不安 (下) |
| Sub Title | |
| Author | 堀江, 帰一 |
| Publisher | 慶應義塾理財学会 |
| Publication year | 1917 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.10 (1917. 10) ,p.1345(95)- 1354(104) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 雑録 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19171001-0095 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(む望を記附御旨る依に告廣誌雜會學田三は節の文注御へ主告廣)

△價格表

| | | | | | | | |
|--------|-------|--------|---------|-------|--------|----------|--------|
| □高等裁縫部 | △セビロ | ▽オバコート | ▽レインコート | ▽フロック | □制服部 | ▽専門学校(立) | ▽金 |
| 三ツ揃 | 三十圓以上 | 二十八圓以上 | 廿二圓半以上 | 五十圓位迄 | より可申上候 | 立 | 三十七圓位迄 |
| 金 | 八十圓位迄 | 九十圓位迄 | 五十圓位迄 | 金 | | 金 | |

東京銀座尾張町

澤田洋服店

創業於米國桑港(一九八一)

其材料の新しい△
其型の氣のさいた△
其技工の優れたる△

澤田の洋服は

紳士の氣分に

最も能く融合して

御満足最も慥かなり

彼れが創業以來三十年に近い永い經驗と厚い信用、それに日々の最善の努力とは廣く深く紳士間に好愛せらる、所以である△

御注文は……今直ぐに……はがき又は

電話新橋二二三七
振替口八八二八

△市内には御報次等參上見本豊富に御高麗に可供候△
△地方は大略價格御報御報被下候は、見本及容易なる採寸法相送り可申候▽

雜錄

英國に於ける戦時の
勞働不安(下)

堀江 歸一

三 委員會の提案

本委員會は非常の事變の生じつゝあるの間調査の歩を進めたり。今や戦争は社會の狀況に大なる變化を齎らせるのみならず、世人の要望しつゝある産業上の改造も亦實際政治の問題たらんとするの趣あり。思ふに平和の到來は改造の時期を招致す可く、産業上の方面に於て、狀況の異なるものある可し。生産の方法を革新するの必要は既往二年間に偶發したる事實に依て、一再ならず主張せられ、一方に軍需品の製造は

英國産業組織に改造を要することを證明したり此大問題を解決する爲めに、本委員會は下記の提案を公にせんとす。固より委員會の期する所は調和ある經濟組織に伴ふ根本原則を定め、産業上の不安に關する問題の解決せらるゝに先だち、是等の原則を特殊の事業に適用せんとするものにして、其原則を説明するに當り、左の諸項に問題を分たん。

- (1) 備者并に勞働者の態度并に觀測
 - (2) 紛議に處する機關
 - (3) 産業の組織
 - (4) 戦後の經營
- 第一、備者并に勞働者の態度并に觀測。備者并に勞働者は互に輕快なる態度を以て、産業上の問題に對せざる可からず、彼等の代表者が事を議する場合にも亦然り。蓋し産業上の紛議を醸す可き問題を議するに當り、當事者の態度の輕快なる可きは、委員會に意見を陳述したる人

士の多数の認むる所にして、從來當事者間に存したる疑惑の如き、要するに無識の結果とす可きものなり。思ふに日常備者と労働者と離隔したる生活を營む以上は、彼等が理想に於て、相背馳するは已むを得ざる所に屬し、彼等が互に有する階級的意識は相互の接觸并に自由の討議に依らざれば、之を消滅せしむること甚だ困難なりとす可く、然も斯る方法に依て、彼等の間に理解を生ずるは、労働不安の問題を解決するに、最も必要なりと云はざる可からず。而して此目的を達するには、當事者が單に解決す可き事件あり、又紛議の現に起れる時のみに止まらず、双方の利害に關係する産業組織の問題を議する爲めに、時々會合するを必要とし、且つ其會合たる、紛議を回避するが如き消極的性質に非ずして、積極的建設的のものたらざる可からず。今日彼等が會合するや、反對者たるの態度を以てするを常とす。斯の如くして相互の間に

理解を生ずるが如き、望む可からざる所に屬す可し。特殊の事業に於ける備者労働者の會合の如き、其利導宜しきを得るときは、産業生活に於て一の規律ある事件たる可く、備者にして産業上の状況に關する一切の情報中労働者の知る可きものを彼等に示し、疑惑と不安とを除くに勉めんか資本労働間に於ける諒解を得ること容易なる可し。平和の到來と共に幾多産業上の問題發生し、其解決を要するは勿論にして、吾人は國民として斯る新状態に當るの準備なかる可からず。蓋し今回の事變は備者労働者の双方に建設的會合を起す可き機會を與へたるのみならず、國民全體の幸福に關係ある問題に處するの義務を負はしめられたればなり。

備者にして産業上の問題の解決に資せんとするには、單に毎週労働者の收むる賃銀の額のみならず、労働の費用に就て、考慮する所なかる可からず。最も低廉なる勞力は最も高く支拂は生産高に對する制限の撤去を辭せざる可く、或る備者の如きは夙に此事實を認め、週末労働者が多額の賃銀を得るを見て、満足の意を表するものあり。然れども多数の備者は斯の如く爲らず、職工組合の制限政策を變更すると共に、備者亦態度に改む可きものありとす。

更に備者労働者の双方に取つて必要なるは、彼等が經濟學の根本的事實并に原則を知ること是れなり。蓋し彼等が相互の問題を理解し、又産業上の問題に於ける態度を改むるには一に教育の改良に待たざる可からず。最も重要な普通教育にして、此以外に經濟學も亦一般に益するものある可く、備者は商工業に伴ふ原則を労働者は社會上經濟上一般の問題に就て、研究す可し。彼等の研究にして全からんか、双方に於ける階級戦争の傾向を杜絶し、利害の衝突を避けて、却て其調和を來す可きを疑はず。

第二、紛議に處する機關。各産業に於ける勞

る、勞力なるの事實は從來經濟學者の唱導する所なると共に、多数の備者に依て承認せられたるが、總ての備者が此事實を知るは最も必要なり。思ふに生産費を節減するは備者の任務とする所にして、而して労働は此費用中の重大なるものなり。然も事業に關係ある労働者の幸福は生産費の節減よりも、更に重大にして、其幸福は賃銀を引上ぐることに依て、之を全うするを得べく、一方に賃銀を引下げずして、労働の費用を節約するには、労働者をして其最善とする所を盡さしむるを必要とし、労働者が生産高に加へ來れる制限を除却するが如きも、此點に於て其實行の急を告ぐ可し。固より是等の制限の不可なるや論を俟たずと雖も、労働者が斯る處置に出づるは備者が生産せらるる貨物に於ける労働の費用を顧みず、獨り賃銀の高のみを意とするの態度に刺戟せられたるもの少なしとせず故に備者にして斯る態度を改めんか、労働者亦

働者并に働者は各自の組織を擴張し、協力以て其産業の行はるゝ状況を改良せざる可からず。働者組合并に職工組合を完成するには、總て當該産業に従事する者を強制して、組合員たらしむるの説あれども、斯の如きは却て大なる弊害の伴ふ恐れあるを以て、寧ろ今日に於ては、第一國家は働者組合并に職工組合を公認すること第二是等の團體が賃銀、労働時間、労働状態等に就て意見を交換し、其間に一致を得たる時には、其約定の効果を一地方に於ける全體の産業に及ぼし、之に違背したるものを處罰することの二點を肝要なりとす。固より斯る手段行はるゝも、箇々の働者并に労働者は特殊の事業を支配する組合に加入するに就て自由なる可しと雖も、公認組合間の約定の行はるゝ地方の産業に關係せんとする者は必ず約定に服従することを強要せらるゝに至る可し。

次に紛議に議する機關として必要なるは各産

業に於ける永久の聯合委員會にして、總て働者労働者間に於ける普通の事件は此委員會に於て攻究せしむるを要す。斯る委員會をして成功せしむるには、産業并に地方を代表するものたらしめざる可からず。而して斯る委員會の存立は働者労働者の双方に於て、各自の權利を承認したる證據にして、此委員會をして單に労働紛議を解決するの任に當らしむるのみならず、産業組織の重要問題を攻究せしめんか、得る所鮮少なからざる可し。或は働者は之を以て労働者に與ふるに、働者と對等の地位を以てするものとし之を非難するや、知る可からずと雖も、兩者共に協力を要する仕事の當事者にして、假令ひ其爲す所は種類に於て異なるも、程度に於て優劣なき以上は、斯る非難の道理なきや論を俟たざるなり。

或は地方委員會の代表者を集めて、中央聯合委員會を組織し、前者の解決する能はざる問題

を後者に於て審議せしむるも、必要なる可く、地方委員會の解決するを得ざりし問題を政府又は政府の任選したる團體に移牒して、裁決を求むるよりも、中央聯合委員會の處断を求むるを以て、適法なりとす可し。此種の聯合委員會は千九百十一年工業紛議調査會なる名稱の下に成立したれども、今日廣く利用せらるゝに至らず、吾人は此調査會の改選行はれ、働者并に労働者の選舉したる代表者を委員とし、其決議に強制的效力を有するに至らしむるを至當なりと信ず。要するに働者并に労働者は彼等の組織したる團體の決議に對して、絶對に服従せざる可からざるなり。

第三産業の組織。働者と労働者との間に協同の必要あるの事實に就ては兩當事者に於て承認せざる可からず。資本と勢力とは産業に於て相依頼する關係を有し、其は他の一に援助を仰がざれば何事をも爲す能はず、兩者相待つて企

業并に組織の要素たり。産業に於ける永遠の平和は實に兩者の協同に依て維持せらるゝものなり。隨て産業に利用せらるゝ資本を減縮し、労働の品質并に分量を低下し、企業并に組織に對する獎勵を妨害するが如きものあらんか、其何たるを問はず、産業上の能力を傷くるに至る可し。蓋し産業に於ける當事者の報酬は産物に依て支拂はる可きが故に、産物の分量を減ずれば自ら關係者に分配せらる可き富の分量を減ずるを免かれざるなり。然らば職工組合に於て、労働者の生産高に對して課する制限は此點に如何なる關係ありや。之を經濟上より考ふるに、労働者の労働力には一定の限度ありて、之を超過するときは、肉體上に及ぼす影響に依て、全體の産物に減却を來すことあり。故に労働者をして其仕事の爲めに、過勞せしめず、労働の期間に於て、以前の労働に依て蒙れる疲勞を恢復するの餘暇を有せしめざる可からず。此労働期

間の制限は經驗と觀察とに依て、決定するを要すれども、今日に於て人の之を知り、又考ふること甚だ少なしとす。然も此限度以内に産出高を制限することも亦産業に對して有害なり。故に吾人の意見を以てすれば、労働者が産出高を制限する政策を緩和すると共に、備者も亦仕事を急速ならしむるを念とせず、多くの産業に於て、標準労働時間と機械の標準速力とを定め、備者并に労働者の組合に於て、是等の標準を承認し、組織あり、規律ある産業に之を適用するを以て、當面の急務なりと信ず。産業に於て産出せらるる産物が生産の諸要素の協同に依るは何人も知る所にして、特に説明するを要せず、唯問題とする所は如何にして此産物が諸要素の間に分配せらるるやの一事にして、資本勢力の協同の如きも、當事者が産物分配の割合に満足して、始めて行はる可きものなりとす。或は本委員會に對して、最低賃銀又は産業に

利用せらるる資本の利子決定に就て、或る提議を爲すことを求むる者ありと雖も、吾人は之を必要とせざりき。蓋し相異なる産業并に地方の事情は到底是等の點に就て、劃一の規則を設くるを許さず、而して吾人の提議したる地方並に中央の聯合委員會にして組織せられんか、總ての事實を徴し、各種産業の運用に關する事項を決定するを得ればなり。

元來資本家と労働者との協同は産物の分配以上に及ぶ可きものなり。蓋し生産上の課程を進むるに就ては、兩者の協同を要し、而して此協同たる、當事者が互に信頼して、始めて其實現を期し得べく、一方に斯る精神は當事者が仕事の行はるる狀況を自ら或る程度まで支配しつつあることを知りて、醸成せらる可ければなり。然も今日の制度に於ては生産上の課程は總て資本家の決定する所に係り、労働者は何等之に干與する能はず、若しも資本家の決定したる所に

不満足を感せんか、自ら労働力を撤退して、以て資本家の譲歩を強要するの外に出づるの道を存せざるなり。然らば如何なる程度まで労働者をして産業上の組織に關係せしむるを可能なりとするや。労働者は産物の販路の如き事件に對しては間接の關係を有するに止まれども、他の事項例へば工場の設備機械の速力等に就ては直接の關係を有す可し。固より組織に關する職務例へば生産の諸要素を結合し、是等諸要素の企業に於ける割合を決定し、生産物を消費者の手に達せしむるの諸點は資本家自ら之に當らざる可からず、隨て有能の人士が事務を處理し、所謂自由企業の制度を維持するを必要とす可く、一方に貨物に對する需要、原料品の代價に變動起らんか、機械の種類を變更し、或は他の生産要素に對する機械利用の程度を伸縮するの必要を生じ、是等の諸問題亦資本家の判断に依て、決定せざる可からず。然れども是等の外に資本

家労働者の協同に依て行はる可き工場經營の細目ありて、通例工場長、職工監督に依て決定せらる。例へば労働時間に關する詳細の決定、休憩交替時間機械運轉の速力、労働の細別の如き之に當るものなるが、是等は工場に現存する狀況を知悉する労働者委員會の助力に依て決定するに至當とし、労働者亦生産高に關する狀況を顧みて、之を決定す可きを以て、自ら資本労働の協同を促し、労働に對する監督の費用を省約するに難からず。

或る産業に於て其組織又は仕事の狀況固定せず、生産技術に改良の行はれて已まざるものありとすれば、當事者に如何なる影響を及ぼすや假に備者が生産費節約の目的を以て機械又は技術を應用するとするも、之に伴つて生ずる利益を獨占せんとするものに非ず、代價を低減して競争上に有利なる地位を收め、物資に對する需要を増加して、益々生産費の低減を期すること

ある可く、一方に新機械新技術を應用して、其労働者に及ぼす利害の衝突を緩和するには、或る労働者を選んで之に高給を與へ、新方面の事業に當らしむるを必要とす可し。故に僱者に及ぼす影響を約言すれば、生産費の低減と爲り、物價の低落需要の増加と爲り、労働者使用數減少して、賃銀豊富と爲り、利潤の増加と爲る可し。次に其労働者に及ぼす影響を考ふるに、一部の労働者は賃銀の上進を來し、又労働に安樂なるを得べしと雖も、或る労働者は事業より排除せらる可し。是等の労働者は自ら他の事業に使役せらる可しと雖も、一時失業の状態に陥るは已むを得ざる所にして、到底多少の困難を免かれず。茲に於てか労働者は生産高を制限して労働に對する需要の増進を謀る可く、此方針にして固守せられんか、結局労働者自身にも不利益を及ぼすに至る可し。若しも新機械にして自動的作用を爲すものならんか、之を運轉するに

要する熟練労働者は少數にして、半熟練又は不熟練労働者を以て事に當らしむるを得るが故に此結果として(一)少數の熟練労働者が多數の不熟練労働者と相並んで仕事に就き(二)機械の設計製造に多數の熟練機械工を必要とし(三)労働者の有する熟練の標準は常に同一の仕事に従ふが爲めに、低下するを免かれざる可し。

故に新機械又は新課程の應用に依て、労働に對する需要の減少せんとする場合には、其對策として(一)僱者は其會計上に及ぼす利益、現在の生産高に對して使役せらるる労働に於ける節約、代價低落の爲めに生ずる需要の増加、新資本の増加額、労働者に及ぼす一時的影響等に就て正確なる觀測を爲す可く、(二)以上の觀測は僱者併に労働者に於て共に之を攻究し、(三)兩當事者に公平なる協定を爲し、資本家は一時新方法の危険を冒すも、之に伴ふ利益を收め、労働者は一時需要を減するも、終局に於て之を恢

復するの計を立て(四)一時失業したる労働者は如何なる程度まで失業保険又は生産高の増加に依て、損害を免かるゝを得るやを考慮せざる可からず。或は斯る新機械又は新課程が内外國に於ける新會社に依て採用せられ、事業に成功を博せんか、舊状態に於ける資本労働は共に有害なる影響を蒙り、労働者は失業保険に依て間接の補償を收むるの外に、賠償を得ること甚だ困難なる可し。

以上の提案を爲すに當り、吾人は専ら組織あり、生産に標準あり、仕事に規律ある製造業に就て立論したり。隨て従業者の甚だしく分散せる運送業の如きに右の提案を適用するは、頗る困難なれども、是等の事業に對しても亦宜しく異なる事情を參酌して、以て協同の原則を適用せざる可からず。即ち僱者は一定の地方に於て一の事業に就て組合を組織し、更に一の事業に於ける全國聯合會各種事業の地方聯合會併に

諸事業に亘る全國聯合會に其組織を及ぼすと共に、労働者亦之に對する組合併に聯合會を組織し、兩者の代表機關より工業紛議調査會を構成して、以て仲裁の任に當らしめ、國家は宜しく是等團體を公認するを以て、現行産業組織に對する改良の方法とす可し。

四 戦後の施設

(一)兵員の除隊 戦後に於ける兵員の除隊に對しては、充分なる組織を設くるに非ざれば、大なる利害の衝突を生ずるに至る可し。例へば兵員が漸次序を逐ふて除隊せらるる場合には最初に除隊せられたる者は容易に職業に就くを得べしと雖も後に除隊せられたる者は必ずしも然る能はず、此間に於ける不公平は之を如何せんとするや。又除隊兵が職業に就く場合には、戦時労働者の不足に乗じて、職業に就くを得たる半熟練不熟練労働者若しくは婦人の如きは失業者たらざるを得ず、彼等に對しては如何なる取

扱を爲さんとするや、將た又半ば廢疾者と爲れる兵卒に對しては如何なる職業を與へて其生活を全ふせしむ可きや、共に重要な問題にして之を處理する爲め、諸地方に地方事務局を設け備者併に労働者を委員の多數に充て、戦争の爲めに或は軍需品製造の爲め、一旦職業を棄て、戦後之に復せんとする者に職業を授くるの計を講せしめんとするの說ある所以なり。

(二)戦争と共に終る可き特殊の約定。政府は戦時職工組合と種々の約定を爲し、或は生産に關する職工組合の制限的條項、仕事に於ける差別の緩和を求め而して戦争終熄の後には總て是等の譲歩は消滅して、戦前の状態に復歸するの條件を付したり。故に將來發生す可き事件に關しては、何等疑を挟む可きものなきが如しと雖も、戦時多數の工場は新型の機械道具を應用し事情の戦前と異なるものを生じ、賃銀其他労働條件に關して條件を改めざる可からざるに至れ

り。平和恢復の曉には一時少なくとも國際間に大なる需要を生じ、産業の繁昌を告ぐるが如しと雖も、同時に國際間の競争は熾烈と爲る可し吾人にして新設備を利用せんか必ずしも將來を悲觀するを要せず、備者併に労働者が舊時の約定を再考し、双方に適する條件の下に、生産の増加を期して、需要の増加に當るを以て急務とす可し。

(三)平和成立に對する準備。平和成立の際には商工業に變動の起ること當然なるを以て、内國に於て斯業に經驗の豊富なる人士をして市場原料品の供給、金融上の状況等を資料として、内外貿易に關する觀測を試みしめ、之を労働者の代表者に示すと共に、資本家労働者をして將來に處するの道を攻究せしむ可し。

佛國人口の將來(下)

阿 部 秀 助

佛國人口の將來に關して、殊に直接の利害關係を有するものは同國の陸海軍にして、現に其要求數を齎らすこと能はざる困難は年々大となり、其結果、肉體上、精神上不合格者として除隊せられしものが再び軍籍に編入せられしものあり、即ち千九百九年春の調査によれば健全なる體格を有するものは只だ僅かに五十二萬一千人にして法律上の募集規定たる五十七萬人に及ばざること四萬九千人に達せり、而して同國は以上軍事上の缺陷を充たさんが爲めに更に「セネガル」及「スーダン」方面より土着の土人を以て一種の殖民軍を編成せしむるの已むを得ざ

るに至れり、斯くの如く佛國の大患たる人口減少の理由に就きては世人の傳ふるもの一にして足らず、或者は之れを以て餘りに租稅殊に間接稅の負擔が過大なるに歸するものもあるも、然かも「ルキ、フキリッ」及「ナポレオン」三世の時代にありて其稅率たるや遙かに今日の及ぶ處にあらず、殊に食鹽の如きは三倍砂糖は二倍の高率を有せしも、之れが出產數は今日の七十五萬に對して百萬に達せしものなりとす、又、現時にありても「ブリタニー」方面に於ける間接稅の如きは自餘の佛蘭西各部に比して優るとも劣るものなきに不拘、此方面の出產率は比較的大なるを以てしても、斯くの如き假説の成立せざることを知るを得可し、更に第二の論點は出產率減少の原因を以て同國に於ける酒精中毒に歸するものもあるも之れ亦た誤れる議論たることは、現に同國に於ける「フキニステル」其他二三の州にありては酒精の消費額甚だ大なるに不拘、之